

2019年度日本語教育実習 最終レポート

私は他のみんなとは違い、1年あとに日本語教育の講義を受け始め、2年間、日本語教育を学んできました。最初のころは、後輩と一緒に受ける授業もあり、勉強することも多く、日々学びの連続でした。今回は5つの学びについて述べていこうと思います。

まず初めに難しかったことについてです。2年生の前期、私にとって1番最初の日本語の講義を受けたときに、「ギャップ」を感じました。「日本語を教える」とだけ聞くと、私にもできるのではないかと少し簡単に考えていました。しかし、講義を受けてみて、実際に前に立って自分でやってみると、出来ないこと・難しいことばかりで、そこで初めて日本語教員の難しさを知りました。

特に難しかったのは、発音やアクセント・イントネーションです。自分では普通に話していると思っていても、その言葉が方言だったことが多くありました。少しでも意識していないと、そういった方言の単語やアクセント・イントネーションが気づかない間に出てしまい、標準語で話すのは簡単なようで、とても難しいことだと思いました。

2つ目に楽しかったことについてです。難しいこともたくさんありましたが、楽しいこともたくさんありました。日本語教育の勉強は知らないことばかりで、新しいことを学ぶのは面白く、楽しかったです。その中でも特に関心を持ったのはクラスの雰囲気づくりについてです。

後輩と一緒に受けた授業ではクラスの雰囲気づくりや、教師のいろいろな工夫、日本語の教え方など基礎の部分学びました。クラスルーム運営の講義を受けてからは、自分が受けている講義の先生をそれぞれ観察してしまうなど、今までになかった、新しい目線が身に付きました。この講義を受けて、自分はどんな授業を作りたいか、少しずつ考えるようになったと思います。

3つ目に日本語教育の講義を受けてからの出会いです。日本語教育の講義を受けて忘れてはいけないのは、T先生との出会いです。動画を見ただけで、直接お会いしたことはないですが、T先生からはいろいろなことを学びました。私が日本語教育のなかで大事だと考えている「暗記ではない学び」はT先生の動画を見て学び、実際に実習を行って行く中でも、それを実感しました。T先生の授業は一つ一つが工夫されていて、また生徒に寄り添ったものでした。動画を見て、すごい！私も受けてみたい！私もこんな楽しい授業作りたい！と思いました。この出会いがあって、私が作りたい授業が明確になっていったと思います。

しかし作りたい授業が分かっている、その授業を作るのはとても難しかったです。自分ではうまくいく！と思って考えた活動も、実際にやってみるとあまり盛り上がらないなど、空回りしてしまうこともあり、授業を創る難しさも教えていただきました。

4つ目に成長したと思うところですが、2年間振り返ってみて大きく成長したと思ったのは、教案の作り方でした。このレポートを書くにあたり自分が今までに作った教案を見返しました。1番最初に作った教案を見て、時間配分であったり活動内容の書き方であつ

たり、全てが全然できておらず、自分で見て驚きました。実際に自分で授業をしていく中で、活動内容に対する時間配分も分かるようになってきましたし、自分が見やすい教案の書き方も見つけることが出来ました。今の教案と昔のものを見比べてみると、自分にあった教案を書けるようになったのではないかと思います。

5つ目は教育実習授業での学びです。中国人留学生の2人と、YMCAの約20人の学習者に授業を行いました。その中でも1番印象に残っているのはYMCAでの2回目の授業で、1人で45分の授業をした時のことです。授業をするまでは、不安でいっぱいでした。その分、教案や教材作りにはいつも以上のたくさんの時間を使い、いつも以上に頭の中でプレ授業（頭の中のリハーサル）を行いました。実際に授業の時間になると、最初のほうは緊張していましたが、だんだんと緊張も解け、私自身も楽しんで授業をしていました。活動の発表などで、学習者が予想を超えて面白い回答をした時は、私も自然に笑っていましたし、1人1人の個性も出てとても面白かったです。これは、私たちが受けている英語の授業とは違って、日本語ならではの感じがしました。

これから私は一般企業へ就職する道を歩みます。その道を歩んでいくにあたって、就職活動や、就職した後も、たくさんの困難があると思います。そんな時は日本語の実習の時と同じように、仲間と一緒に助けあいながら乗り越えていきます。

また、「現状に満足しない」ということも、日本語教育実習を通して学びました。環境は日々変わっていきます。日本語の授業では学習者も変わりますし、それに伴いレベルも変わります。また、授業をして改善点も見つかるでしょう。そのような中で現状に満足し、新しいことに挑戦しなければ、より良いものは生まれません。日々どうすればもっとよくなるか考え、行動し、新しいものを追い求めていきたいです。これが仕事へのやりがいにもつながっていくと考えます。1つの仕事にやりがいを感じながら、自分なりのやり方でいろいろなことに挑戦し、時には仲間の助けをもらいながら、より良いものをつくって行ければと思います。

2年間の日本語教員養成課程の授業を通して「授業を受けていなかったら、今後絶対に学べていなかったらと思うような学びがたくさんありました。日本語教員という存在自体、私はこの学校に来て初めて知り、2年生から講義を受けることを決めました。私が日本語教育課程を受け始めた理由は、友人が日本語教育を受けていて私も興味を持ったから、というちょっとした理由でした。難しいこともたくさんありましたし、不安もたくさんありましたが、その分楽しいこと、面白いことなど、いろんな学びがありました。それらはすべて先ほども述べたとおり、日本語教員養成課程の授業を受けていないと、出会えなかった学びです。日本語教員養成課程の授業を受けて本当によかったと心から思います。

最後にここまで頑張れたのも、横溝先生をはじめ、一緒に助け合ってきた仲間のおかげです。1年遅れて仲間に入った私にいろんなことを教え、助けてくれたみんながいたから、あきらめずに頑張ることができました。後輩も嫌な顔をせずに、一緒に授業を受け仲間に入れてくれました。みんなには感謝しかありません。日本語教員養成課程を通してたくさ

んの人との出会いがありました。先生、仲間、学習者のみなさん。この出会いは私にとって大切な宝物です。大切な学びも出会いも忘れずに、これからもいろいろなことに挑戦していこうと思います。